

COPD

「COPD」と聞いてピンとくる人がどれだけいるだろうか。

松本市で開かれた信州大学医学部と農学部
の市民講座で、医学

部内科学第一講座の花岡正幸教授が「粒子状物質PM

2・5の人体への影響」と題した講演の中で

問いつけた。花岡教授はCOPDへの認識不足と危

機感の欠如に警鐘を鳴らした。COPDは慢性閉塞性肺疾患

と呼ばれる、従来の慢性気管支炎や肺気腫を合わせた肺の炎症性

疾患だ。症状は「慢性的に咳や

たんが出る」などで、原因の9割以上がたばこという。世界保

健機関が2020年に死亡原因の第3位になると予測し、国も

平成34年までに認知率を80%に高める目標を定めている。

PM2・5が問題視されるのはCOPDを引き起す恐れがあるからだ。

PM2・5はたばこの副流煙に多く含まれ、喫煙室の濃度は中国の最悪レベルに相当するという。肺気腫と

診断された祖父が病院のベッドで酸素マスクを付けたまま最期を迎えた姿を思い出す。家庭で

職場で予防を進めたい。(横)

